

廃線トンネル 歩いてみよう

多治見市と愛知県春日井市を結ぶ中央線の廃線跡にある「愛岐トンネル群」が11月21～23日、公開される。一帯は、東海地方で最も古い鉄道トンネル群。廃線跡の一部(約1・5キロ)を歩きながら、明治期の先端技術で造られた四つのトンネルと、美しい渓谷の景色を楽しめる。(高木文子)

多治見—春日井 来月21～23日公開

NPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」(春日井市)が企画した。同会は2年前から草刈りやトンネル群の公開などをしており、民有地の買い取りのため1500万円を目標に寄付も募っている。将来は、一帯を遊歩道などに整備したいという。

トンネル群は1900(明治33)年に開通。険しい渓谷の間をぬうように、14のトンネルが開いていると、むせかえるような煙が入る。乗客が「開けたらいかん」と声をかけあい、木枠の窓を夢中で閉めたのを覚えている。

ガイドの吉田峻之助さん(67)が関心を寄せるのは、赤れんがだ。トンネル群には1890万個のれんがが使われ、刻印も十数種類が確認されている。上質な美濃焼「西浦焼」を世界に輸出した市内の豪商・西浦圓治も、れんがを生産したと伝わる。だが、西浦の刻印がどれなのか、分かっていないという。

知人の紹介で活動を知り、懐かしいトンネルを歩いてみた。内部のれんがは、ほとんど落ちていない。「こんな身近にすごい遺産があった」。明治の技術と保存状態の良さに舌を巻き、多治見支部の世話人代表を引き受けた。

多治見市観光ボランティア田さんは目を輝かせる。「西浦がどのれんがを、どこで焼いたのか。多治見人として関心は尽きない」と、吉



愛岐トンネル群＝愛岐トンネル群保存再生委員会提供

愛岐トンネル群保存再生委員会は6月に多治見支部もでき、県内での活動を広げている。会員は様々な思いを胸に活動にかかわる。

「なんで、あそこに人が」
昨秋の公開日。たまたまトンネル群の対岸を通った堀部和経さん(53)は、廃線跡を人が歩いているのに驚いた。

幼いころ、家族で中央線に乗り、東山動植物園などへ出かけた。当時はSL鉄道。トンネルで客車の窓が一つでも

身近な遺産 保存の輪拡大